

## 時代の節目を前に、教育に思うこと

香南中学校・校長 渡部 哲夫



このたびの東日本大震災により、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心から願います。また、

復興のため尽力されてきている皆様には深い尊敬の念を感じています。本当にご苦労様です。

さて、三月十一日の大震災以後、日本人の世界観は急速に変わりつつあるようです。

「豊かさ」と「生き方の多様性」を追求した時代は終わりを迎えたと感じるのは、私だけでしょうか。私は、五十歳代ですから戦争

は体験していません。ですが、戦後を生きてきたと思つています。ただ、焼け跡から復興し、日本を経済大国にまで発展させた世代ではありません。それは、過酷な時代を経て、努力に努力を重ね、次世代の人々のために、暮らしやすい社会を築こうとした先輩や父母の世代です。これらの先輩たちを、戦争を体験した戦後の第一世代とすれば、私にはある程度の豊かさから出発した戦後の第二世代だと思つています。一般的に第二世代(二世)は精神的な弱さや問題を抱える場合があります。

でも、あのときまでは、戦後という時代の枠組みに入つていたと思えるのです。まだ、社会は持続的に発展すると、誰もが考えた時代であり、地球という環境が閉ざされていくことを意識せずには暮らせた時代です。実際には科学とメディアの進歩は地球を急速に小さな世界に変えていくことに気づきながら、そのことを真剣に考えない時代だったのかもしれない。

平成二十三年三月に起こった大震災とその後に起こった出来事は、私たちの生活の意識や精神を一変させました。その変化により、これからは「大震災後」と呼ばれる時代になったと感じています。

り戻した(再認識した)姿であり、明るい未来への唯一の希望と思えるのです。

ところで、学校はこれからの時代を造る地域の生徒の教育を担っています。豊かさと余裕のあった時代の教育ではなく、生徒の能力を自他のために生かすことを、今まで以上に大切にすることを教育が求められていると考えます。

「がんばれ東日本」と書かれた包末・徳久美恵さんの絵手紙



被災地の復興や放射能汚染の問題について、我々日本人は、必ず解決できると信じています(楽観論ではありません)。なぜなら、「それらの課題を当事者として解決する自覚」を日本人全体が持つているからです。それこそが、日本人の良さと強さを取

先に挙げた課題を解決するためにも、科学・経済・政治分野における人材と地域を守る人材の必要性が高まっていることは間違いありません。情に厚い「豊かな心」と、課題を解決するための活用できる知識「知力」と、社会や家族を守る健康でたくましい心身「倫理・道徳・体力」などを育てる学校であることが、より求められる時代になったと考えています。今の本校にそのような教育力が、十分に備わっているとは言えません。地域の方々の応援が必要です。どうかよろしくお願いいたします。すべての生徒の内面の豊かさ、たくましさ、を育てるために...